

現代社会講座

講師 後藤 道夫 都留文科大学名誉教授
東京学習会議副会長

これほどのひどい社会とひどい政権はどのように作られたのか。安倍政権はなぜ、＜戦争国家づくり＞と＜新自由主義改革＞を同時に追求するのか。それを支える勢力は何か。なぜ、日本政府はアメリカにこれほど従属的なのか。私たちは、どのような社会を目指してこれらと闘うべきなのか。—— 多国籍企業が支配的となった＜現代帝国主義＞のしくみを軸に考える。



日程 11月10日～12月1日【毎週火曜日】 午後7時～9時

会場 全労連会館3階

会費 全4回で5,000円（聴講は1回1,500円）

▶ CD受講：6,000円（①音声CD：CDプレーヤー再生、②データCD：パソコン再生）

▶ ネット受講：5,000円 ※音声ファイルのダウンロード

----- 切り取り -----

2015年 東京労働学校 第129期 現代社会講座 受講申込書 月 日

氏名				男・女	年齢	才
住所	〒					
電話	自宅：		携帯：			
E-mai						
受講方法 (○で囲む)	①教室受講 ②CD受講（音声CD or データCD） ③ネット受講					
労組・団体名：			会費受領日	月	日	受領者名

11月

第1回

10日
(火)

安保法制と現代帝国主義

なぜ、安倍政権は＜戦争国家づくり＞に突き進むのか。自衛隊を外征軍化する内外の圧力の元は何か。そもそも、資本主義国はなぜ「普通に」軍隊をもつのか。＜現代帝国主義＞の視点から考える。

第2回

17日
(火)

急進化する新自由主義改革

＜戦争国家づくり＞と＜新自由主義改革＞が同時に行われるのはなぜか。長期不況の原因は、新自由主義改革の「不足」なのか「過剰」なのか。そもそも新自由主義改革とは何なのか。経済グローバリズムの深化による、大衆社会統合の縮小をつかむ。

第3回

24日
(火)

「日本型雇用」の解体・縮小と資本独裁

日本だけが長期の賃金低下を続けたのはなぜか。「自己責任」と貧困への抵抗がこれほど弱いのはなぜか。先進国でもっとも激しい男女差別はなぜ定着しているのか。日本型雇用と労働運動の長期停滞を対象化する。

12月

第4回

1日
(火)

あるべき社会を考える

「失業の権利」が保障されることで低い労働条件が排除され、高い労働技能を目指せる社会。非勤労者が家族責任ではなく公的保障で暮らせる社会。グローバル市場の暴威と闘う社会。……。新たな福祉国家型社会の原則と規範を考える。

- ◎受講のお申し込みは、申込書にご記入のうえ、東京学習会議までFAXしてください。メールでのお申し込みも受け付けます。
- ◎団体としてお申し込みの場合は、「氏名」欄に団体名をご記入ください。

【申込み・問合わせ】

東京学習会議

TEL：03-5842-5646

FAX：03-5842-5647

E-mail：gakusyukaigi@gmail.com

http://www.gakusyukaigi.org

